

新聞を使った授業⑤

今回は、2年生の国語科の授業の様子です。「自分の世界を伝えよう～私が気になった記事～」という単元の学習で、興味・関心がある記事を1つ選んで、記事の内容と記事を読んでの感想を自分なりの言葉でワークシートにまとめ、友達に伝えていました。

ラグビーW杯やNBAの八村選手、障害者スポーツ大会中止など、スポーツ関連の記事から、台風の被害や偕楽園の有料化など地域の情報、意外なところでは味噌の量り売りやすき焼きのたれなど食べ物の記事と、様々な記事を選んでいました。

新聞の記事をとおした「自分の思いを自分の言葉で伝える」という体験が、コミュニケーション力の向上に繋がればと思います。

国語科
第2学年
授業の



気になる記事コーナー12

皆さんは、新聞各紙に「コラム」と呼ばれるコーナーがあるのを知っていますか？朝日の「天声人語」、読売の「編集手帳」、日経の「春秋」、東京の「筆洗」、茨城の「いば

らき春秋」などで、歴史上の出来事や先人の言葉、書籍の文章を引用しながら、世の中の身近なテーマを巧みにとらえて、筆者の考えを述べています。

筆者をコラムニストとも呼び、各紙とも1面の下の方に、毎日、掲載しています。社説が新聞の真顔と呼ばれるのに対し、コラムは新聞の笑顔とも呼ばれ、この表情の違いによって、新聞を選ぶ人もいるそうです。

今回は、その1つ、毎日の「余禄」です。「世界に砂粒はいくつありますか？」など誰もが頭をひねる「世界一『考えさせられる』入試問題」のおもしろ難問を紹介しながら、次年度から始まる新大学入試制度の問題点を指摘しています。

コラムは、身近な話題に触れながら、人に話したくなるような豆知識も得られます。皆さんも、是非、読んでみてください。皆さんなら、リンゴをどう説明しますか？

余録

「古典学部が焼け落ちたらどうなるでしょうか？」。これは英ケンブリッジ大学古典学部の入試問題という。J・フアリンソン著「世界一『考えさせられる』入試問題」(河出文庫)が掲げる難問奇問の一つだ。▲「自分を利口だと思いませんか」「自分の腎臓を売ってもいいでしょうか」「あなたならリンゴをどう説明しますか」「なぜ世界政府はないのでしょうか」「世界に砂粒はいくつありますか」「国内と海外の貧困、注目すべきはどちらか」▲同著が集めた英名門大の面接試験の質問だが、受験生なら思わず試験官の顔を見返すに違いない。もしもそこに座っているのが同世代の学生アルバイトだったら……。自分の知力を絞った解答をちゃんと採点できると思えるだろうか▲大きさにいえるは、そういうことだろう。民間英語試験が延期された来年度からの大学入学共通テストで、今一つ受験生を不安にさせている国語と数学の記述式試験である。採点はアルバイトも使うという民間業者が受注しているのだ▲すでに試行調査で採点者により評価のぶれが出るのも分かっている。そもそも50万人が受験する全国一律テストで公平な採点はどだい無理で、論述や表現力の試験は国立大の2次試験のように必要に応じ大学ごとに行うべきでないか▲だが文部科学相は「品質の良い採点」の体制を整え予定通り導入するとう。では試験官への逆質問である。「一律のマニュアルで機械的に採点するのなら、論述式試験をする意味があるでしょうか？」

2019.11.8